

銘柄分析レポート：光通信の株式投資

1 はじめに

資本主義社会において、経済的に豊かになるための手っ取り早い方法は、資本家の投資をお手本にすることです。

ところが肝心の「どのような投資を行っているか」に関してはベールに包まれています。彼らがそのようなノウハウを、人前でペラペラと話すことはまずあり得ないからです。

そんな中、唯一の例外と言えるのが重田康光氏です。同氏の実質的な資産運用会社である光通信（9435）は上場しているため、ルールに基づき情報を開示しています。

また光通信は事業の一環として株式投資を行っており、大量保有報告書の提出者や上場企業の大株主としてたびたび登場します。この手の情報を時系列で追っていけば「どのような投資を行っているか」の概要をつかむことが可能です。

そういったルーチンワークを続けつつ「なぜ、重田氏はこの会社に投資を行っているのか」自分なりの仮説を立ててみるのが、私自身も実践している生きた投資の勉強です。

今回の銘柄分析レポートでは、光通信が株式投資を行っている会社の中から、個人的に興味を持った2社の分析を試みます。

★光通信 決算説明資料 当社株式投資の特徴

資金運用③余資運用			
当社株式投資の特徴			
	ファンドの一例	当社	
投資対象の捉え方	株式	ビジネス	市場動向をみて判断しているのではない
投資期間	期限あり	期限なし	無期限で付き合いたい企業を部分的に所有する
保有比率の上限	あり	なし	事業会社として連結子会社として運営することもできる
株式の流動性	高いものが投資対象	問わない	流動性が低くても投資できる
主要評価指標	キャピタルゲインやインカムゲインなど	EY	株価の変動(時価)に影響を受けない

余剰資金を長期間運用することが可能

©2023 HIKARI TSUSHIN, INC. All Rights Reserved 48

他人の資金を運用し短期の成果を問われるファンドと、自己資金を長期で運用する光通信では全く投資方針が異なります。私たち個人投資家が参考にすべきは、もちろん光通信です。